



[著者]

清水ヒデキ 豪援隊長
弁護士・移民コンサルタント
(MARN:9900985)

「オーストラリアから日本を援
けよう」と豪援隊発足。16歳
で単身オーストラリアに留
学。その後、ボンド大学を卒
業し、QLD州弁護士資格取
得。長年に渡り、日本人なら
びに日系企業、世界各国の
クライアントのコンサルタント
業務に従事。



インデックス

- 今月のジョーク
- 今月の名言
- 今月の視点
- 今月の気になる記事
- 今月のなるほど!
- 今月の注目記事 1
- 今月の注目記事 2
- 今月のコピペ復刻版



http://zoelangels.org/
Goオーストラリアグループ
は、Zoe's Angels
「Zoeの天使たち」を
支援しています。



今月のジョーク (ジョーク集より)

女性

毎晩、夫がどこにいるか確実に
知っている女性は?

答: 未亡人。



今月の名言 (名言集より)

**My life didn't please me, so I
created my life.**

私の人生は楽しくなかった。だから私は自分
の人生を創造したの。

Coco Chanel (ココ・シャネル) 1883-1971
フランスの女性ファッションデザイナー

今月の視点

きれいな夕日が見える丘の上の公園で佇む二人。。。
二人の顔を夕日が真っ赤に染めている。

その二人の背中からは、共有できる時間を喜んでいると
いうより、お互いどう接していいのかわからないという
ためらいが滲んでいる。その二人のやるせない気持ちが
ひと仕事を終えて、地平線の向こうに消えていこうとし
ている夕日を急かすようでもあった。

今までは、何も言葉を交わさなくても、単純に楽しかった。。。。

一緒に過ごす時間は祝福されるべき時であり、そしてお互いの存在の価値観を認め合う機会
でもあった。しかし、あることがキッカケで二人の関係はギクシャクし始め、しかもその関係の存
続の危機にも瀕している。時代に翻弄されている二人は今後どうなっていくのか。。。。

そして、この二人は一体誰なのか。。。。



1. オーストラリアデイ

少し、趣向を変えた「出だし」でお送りする今月のかかわら版ですが、この二人とは「現在のオー
ストラリア」と「オーストラリアデイ」のことです。今まで毎年1月26日と言えば、市民権取得の
お祝い、ラムチョップのBBQに、公園や自宅でプールパーティーをして、ビールやワインを楽し
むことが、ごく一般的なオーストラリアデイをお祝いする方法でしたが、その様子もここ数年か
なり変わってきています。

元々、1月26日という日付は1788年のこの日にイギリスから囚人を輸送した船がシドニーに
着いたことから始まります。イギリスから移民をしてきた「オーストラリア人」とっては、この日
は新たな国でのスタートをした日ではありますが、それ以前からオーストラリアに居住していたア
ボリジニ族からすると、その日から侵略と暴力の歴史が始まったという解釈となります。何万年
の間、オーストラリアでその文化を守りつつ暮らしてきたアボリジニ族でしたが、イギリスから来
た人間たちにより、彼らの生活のすべてが変えられてしまうこととなります。そのため、オース
トラリアの先住民族のことを考慮すると、この日にオーストラリアの建国をお祝いすることは適
していないということになります。そこで、このオーストラリアデイの日付を動かすべきだ、また
は、何か異なる呼び方をすべきである、という声が上がっていました。

今月に入り、まずはビクトリア州のYarra市市議会では、毎年1月26日に祝日としている「オ
ーストラリアデイ」をオーストラリアデイと呼ばないことを決議したそうです。その後も、それに続
く自治体がチラホラと現れています。このことについては、オーストラリア国民も賛否両論です
が、ターンブル首相は気に入りません。Yarra市に対しては、オーストラリアデイの目玉である
市民権授与式を開催する権利を没収すると発表したり、まるで子供の喧嘩のような対応をして
おります。

この件に関しては、両者にそれなりの言い分があり、一概にどちらが正しいと言えない話です。日本の靖国神社参拝に関して、いろいろな意見が分かれるように、今回のこの「オーストラリアデー」の件に関して、オーストラリアという国がこれからの国方向性を見つけ出すための、一つの試練と課せられた課題のようです。

2. 同性結婚

今月の一番の話題といえば、遂にオーストラリアも同性同士での結婚を認めるための準備に入ったということでしょう。既に、この件に関して国民の意見を求めるための国民投票が行われることが発表されました。恐らく、このかわら版が出るころには、その結果が出ているかもしれません。

筆者の見解としましては、この投票結果に関わらず、おそらく同性結婚は認められる方向で動くことになると思います。宗教や文化上の問題で、歴代の元総理大臣の数人は反対の意見を表明していますが、これは時代の流れというものかと思えます。そうした宗教の観点からの反対があるとしても、世界的な流れのなかで同性同士の結婚を認めることは止められないと思います。ここ最近では、自分の立場というものに対して、白黒はっきりさせらるような状況が、ますます増えてきているのが、ここからも感じられます。

3. 二重国籍問題続行中

今月に入っても、この問題が止まりません。次々と大物政治家たちがこの疑惑に巻き込まれています。まずは、与党大臣のジョイス議員。NZ国籍保持者であったことが判明し、急いでNZ国籍を放棄しました。そして、その次に嫌疑がかけられているのは労働党党首のショーテン議員です。ひょっとしたら、イギリス国籍を保持しているのではないかと言われていますが、本人はそれを否定し、しかも同時にその疑いを晴らす証拠の提出も否定するというダブル否定をしているために、ますます疑いを招いている状況です。この二重国籍問題もそうですが、個々の立ち位置がどこにあるのかを、ますます問われているのが分かりますね。

4. 北の挑戦(くに)から。。。 (その1)

父さん、僕はアメリカに味方をするオーストラリアという国があることを初めて知りました。

グアムを攻撃すると言って、トランプというとても短期なおじさんを怒らせてしまい、そのおかげで今しばいてやるぞと、すごい勢いで怒られています。攻撃するのを止めたから、それで引っ込んでくれると思いましたが、まだ怒っています。そこで、グアムは止めて他をターゲットにすることにしました。それがオーストラリアです。オーストラリアには、トランプおじさんを応援すると声高に言っていた違うおじさんがいて、そのおじさんは僕が攻撃をしてくると思っていないらしいので、そちらに脅しをかけることにしました。

オーストラリアは、ようやく事の深刻さを理解したようです。オーストラリアにターゲットを向けても、トランプおじさんは今までのように怒ってこないの、しばらくこれを続けようと思っています。。。

父さん、キタキツネは、ここにはいません。。。



注:この話は全てフィクションです。

今月の気になる記事

(ABC Newsより)

オーストラリアデーの問題に関連して、今月の気になる記事はこの記事です。

“Indigenous rock shelter in Top End pushes Australia’s human history back to 65,000 years”

なんと最近の発見にて、アボリジニ族はオーストラリアに今までわかっていた年数よりも、もっとさかのぼって6万5千年前から住んでいたことが最近の遺跡の発見で判明したそうです。

6万5千年がどれほど古いかと言いますと、学校の歴史の授業で最古の文明として勉強をしたメソポタミア文明は紀元前5000年前のことです。そして、ネアンデルタール人は3,4万年前に絶滅をしたといわれ、フランスの洞窟ではクロマニヨン人が残したと言われる洞窟絵画が3万7千年前のものではないかと発表されたそう。

これだけ長いと思われる歴史のなかで、オーストラリアにて、すでにアボリジニ族の先祖が住んでいたことは驚きでもあるが、それ以上に古代の歴史について現代人はよくわからないままである。本当は、今わかっている歴史も、全くのどたがめということもある。そして、ひょっとしたら、過去に何度か地球上の生物は核戦争を起こして破滅していたかもしれない。この世を支配していた恐竜は、ある特定の時期になぜ忽然と彼らの種のみ絶滅に至ったのか。

こうした発見は、ますます現代人の無知を明らかにし、我々の知る歴史の正当性についても改めて疑問視する機会を作るものである。

今月のなるほど!

(watch@2チャンネルより)

顔や目がピクピク、この痙攣(けいれん)はなに?

■ 一過性の痙攣:眼瞼ミキオミア

多くの人を経験している目のピクピクは、「眼瞼ミキオミア」と呼ばれるものです。

「ミキオミア」とは、運動神経や脊髄の運動細胞に障害が起こり、身体表面にさざ波のような不随意収縮が起こる現象のことをいい、これが眼輪筋(がんりんきん:まぶたにある筋肉で、まぶたを閉じるなどの動きがある)で起こったものを「眼瞼ミキオミア」と呼んでいます。

眼瞼ミキオミアは、眼精疲労やストレス、睡眠不足などがきっかけで起こり、健康な人でもこのような誘因があれば、十分に起こり得るものです。

通常は一過性で、数日から数週間で症状は落ち着いていきます。

もし、このような対処法に取り組んでも、症状が改善せずに悪化したり、痙攣の場所が広がるようなときは、何らかの病気が関係している可能性があります。

とくに、痙攣は今回紹介した眼瞼痙攣や片側顔面痙攣以外にも、てんかんや脳血管性障害、甲状腺機能異常などでも起こる症状です。

今月の注目記事 其の壹 (Sydney Morning Herald より)

Government's intern plan is just a pathway to poverty 「政府のインターンプログラムは国を貧困への道筋にすぎない」

オーストラリア政府にとって、経済の動静を判断するいくつかの重要なバロメーターのうちの一つは、インフレ率であり、公定歩合、そしてもう一つは失業率であろう。もちろん、これら以外にもいろいろな判断材料があるのだが、これらの数字はニュース等でも比較的良好に聞かれる経済指針である。

そして、こうした失業率解消策の一つとして今年7月より、PaTH(Prepare, Trial, Hire)というプログラムが導入されることとなった。長期間失業している人材を12週間のインターンシップに送り込むことで、失業を解消しようというのがその試みである。しかも、こうしたインターンを受け入れる企業にはインターン一人につき\$1000の補助金、そしてインターン期間中は時給\$4を支払うことが条件となる。

一見、非常に良い考えと思われるこのPaTHであるが、この記事の筆者は、ただでさえオーストラリアの雇用環境が破たんしているのにも関わらず、それをますます助長させるだけだと反対の声を上げている。なぜなら、これは労働者を安価で雇い入れ、使いまわしをすることを政府が後押しする形になるからであると主張している。

確かにこの見解は言い得て妙である。ここ数年、オーストラリア政府のターゲットは外国人労働者を悪条件にて雇用する雇用主に向けられていた。その結果、オーストラリア事業主は様々な形で処罰され、中には商売自体を辞める事業主も多かった。こうした事業主に対して、もちろん決められたことは守るべきだという建前をいうことは簡単である。そして、認められるべきではないが、多くの企業はそれぞれのサバイバルに必死であり、その結果行ったことであるということも言える。一部の大企業を除く中小企業の事業主は私腹を肥やすこと以上に、生き残ることで必死なのである。これは、毎年着実に上がる最低賃金と家賃のおかげで、事業の利幅が自動的に圧縮されてしまうからである。そう、以前にもこのかわら版で書いたことがあるが、オーストラリアの事業主の大半は従業員と大家のために、とてつもない苦勞を強いられる。その結果、事業が破たんする。または、安い海外の労働者を求めて、事業の一部をアウトソースすることとなる。昨今、フィリピンやベトナムといった労働コストの安いアジアへ事業の部分的なアウトソースをする会社は少なくない。

そうすれば、必然的に雇用先はなくなっていき、失業率は上がってしまう。それでは、オーストラリア人でなければできないことを「売り」に、オーストラリア労働者は国内だけではなく、もっと国際的にも売り込みを行わなければならないが、ますますオーストラリアは労働力としては国際的に取り残されていってしまっている。残念ながら、今のオーストラリアは優秀な人材は海外に流出し、それ以外は他の国の労働者との差別化をできずにいる。唯一、差別化できることは労働法に明るく(?)、時間にルーズなことであろうか。。。これでは、国際競争に勝つことはできない。

資源国として、何か売れるものがあるうちは、その国の富みは確保されるものの、それがなくなったら、その時点でその国の価値は下落してしまう。あらゆる面で迷走中のオーストラリアという国が今後の歩むべき方向性と独自の価値感をどこに見出すか楽しみである。

今月の注目記事 其の貳 (The Australian より)

Visa overhaul to slam door on 55000 skilled migrants 「ビザの改正にて55000人の技術移民者は将来を絶たれる」

Australian Population Research Institute (オーストラリア人口リサーチ研究所)のリサーチによると、この度の457ビザを中心とするビザの改正により、年間20万人と言われていたオーストラリアへの移住者が4分の1は少なくなるであろうという研究結果を発表した。

このレポートによると2016年度に発行されたビザの総数約20万件のうち約45000件が457ビザ、そして48000件がスポンサー付きの永住権であったとのこと。そのため、この2つのビザの合計だけで、ビザ発行数の半分を占めるということである。その半分を占めるビザに対して、大ナタが振り下ろされたわけである。

この記事では、スキルビザに関しても、辛辣な批評をしている。本来であれば、オーストラリア労働人口の技術向上、技術を持った人材を海外から登用することを目的にしたビザであったが、その目的は果たされなかったとしている。その代わりに、留学生を相手とする教育産業を儲けさせただけであったとしている。教育産業を代表する意見としては、今回の457ビザ改正による影響は今のところないということであるが、筆者の個人的な見解では、残念ながら、すでにその影響は出始めている。オーストラリアへの留学は減少傾向に向いており、今後は留学先としてのオーストラリアの魅力は薄れていっているようである。

今月のコピペ復刻版

母のデジカメ

なんか機械音痴の母がデジカメを買った。どうやら嬉しいらしく、はしゃぎながらいろいろと写してた。

何日かしてメモリがいっぱいで写せないうらしく「どうすればいいの?」って聞いてきたが「忙しいから説明書読め!」とつい怒鳴ってしまった。

さらに「つまらないものばかり写してるからだろ!」とも言ってしまった。そしたら「...ごめんね」と一言。

そんな母が先日亡くなった。

遺品整理してたらデジカメが出てきて、何撮ってたのかなあと中身を見たら俺の寝顔が写ってた...

涙が止まらなかった。



Go Australia Group

ゴールドコースト事務所

Suite 222, Level 2, Watermark Hotel & Spa
3032 Surfers Paradise Blvd, Surfers Paradise QLD 4217

ブリスベン事務所

Level 5, 262 Adelaide St, Brisbane QLD 4000

E: info@goaustralia-visa.com

<電話でのお問合せ>

オーストラリアから: 07-5570-4542 (月~金 9:00-17:00)

日本から: 03-4283-8484 (日本時間 月~金 8:00-16:00)

www.goaustralia-visa.com